

脳血管医療センターの医療機能の拡大・拡充について

1 平成24年度における主な取組内容

(1) 診療体制の確保

合併症など内科系疾患の医療機能の充実を図るとともに、神経疾患等に対する医療機能の拡大・拡充を図るため、横浜市立大学などの協力を得て、関係診療科医師の確保などに努めます。

◆24年4月時点における新設診療科及び医師配置数の状況

○脳血管疾患医療機能向上関係

血管内の狭窄部位を特殊なカテーテルなどにより拡張するなど高度な治療を専門とする「脳神経血管内治療科」を脳神経外科から分科し、また合併症対応としては、糖尿病・内分泌内科を新設、常勤医師1名を確保したほか、呼吸器内科、消化器内科についても、入院患者を専門に診る病棟担当医を、非常勤医師として確保しています。

- ・脳神経血管内治療科 常勤医師1名配置(※脳神経外科から分科)
- ・糖尿病・内分泌内科 常勤医師1名配置(※合併症対応)
- ・呼吸器内科(病棟担当) 非常勤医師1名応援(週1回)(※合併症対応)
- ・消化器内科(病棟担当) 非常勤医師1名応援(週1回)(※合併症対応)

○神経疾患等医療機能拡大関係

脊椎脊髄外科の常勤医師2名と、手術や病棟診療などの応援のための非常勤医師2名を確保し、4月から他病院からの紹介患者などの手術を行っています。また手術件数などの増加に対応するため麻酔科医についても、非常勤医師2名を確保しています。

- ・脊椎脊髄外科 常勤医師2名配置
非常勤医師2名応援(週1回)
- ・麻酔科 非常勤医師2名応援(週2回)

【参考1】新設診療科・24年4月延べ患者数

	脳神経血管内治療科		脊椎脊髄外科		(現診療科)			
	延べ患者数	入院	外来	延べ患者数	入院	外来	神経内科	脳神経外科
	344人	253人	91人	278人	236人	42人	2,510人	1,174人
							1,261人	876人
							1,249人	298人

【参考2】常勤医師配置数

	神経内科	糖尿病・内分泌内科	循環器内科	脳神経外科	脳神経血管内治療科	脊椎脊髄外科	泌尿器科	リハビリテーション科	麻酔科	放射線科	計
H24.4.1現在	5人	1人	1人	5人	1人	2人	1人	5人	1人	1人	23人
H23.4.1現在	5人	0人	1人	5人	1人	0人	1人	5人	1人	1人	20人
増△減	0人	1人	0人	0人	0人	2人	0人	0人	0人	0人	3人

(2) 高度医療機器の整備

24年度予算:395百万円

脊椎脊髄疾患への外科的医療機能の拡充のため、手術用医療機器を更新するほか、神経難病の診断機能や臨床研究の充実を図るためMRIを更新します。

○外科手術用機器導入

- ・ナビゲーションシステム
- ・術中X線透視診断装置

○高度画像診断機器の更新

- ・MRI(磁気共鳴画像装置)

ナビゲーションシステムとは
脳神経外科領域や脊椎脊髄領域における手術中の対象部位の位置と手術器具の位置関係を画像表示する装置

(3) 手術室増設及び病棟再編成等にかかわる施設整備

24年度予算:550百万円

医療機能の拡大・拡充に合わせて2階に手術室を増設します。そのため、現行2階に設置しているSCU(脳卒中ケアユニット)及び救急病床を3階及び4階に移転します。

【参考】施設改修工事日程

	24年						25年			
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病棟(3F・4F)改修工事	←————→									
手術室増設工事						←————→				

1 横浜市立病院経営委員会答申(平成22年8月)による主な提言内容

(1) 経営面の課題

①患者数が少ない ②診療単価が低い ③人件費が高い

【診療単価・患者数の推移】

	H20	H21	H22
入院患者数(1日平均)	234 人	216 人	203 人
病床利用率(300床)	78.0 %	72.0 %	67.7 %
診療単価	32,555円	36,645円	40,880円
外来患者数(1日平均)	129 人	140 人	139 人
診療単価	7,819円	8,748円	9,550円

【経常収支・人件費比率の推移】

	H20	H21	H22
事業収益①	60.8億円	56.9億円	58.4億円
（うち一般会計繰入金）	23.3億円	22.6億円	22.6億円
事業費用②	74.5億円	68.7億円	67.8億円
経常収支(①-②)	△ 13.7億円	△ 11.8億円	△ 9.4億円
給与費対医業収益比率	104.6%	98.0%	94.0%

(2) 医療機能面の課題

○脳卒中は多要素的な疾患であり、その発症には高血圧、糖尿病、心疾患など、様々な因子が関与するため、神経内科や脳神経外科と、循環器内科や糖尿病内科などとのチーム医療が必要とされるが、センターでは内科系の診療体制が十分でなく、治療対象となる患者が限定され、患者数が少なくなり、収益確保の機会を逸している。

(3) 提言要旨

○脳卒中は地域医療需要に合わせた病床数に削減のうえ、地域医療ニーズを満たせるよう病床の有効活用を検討すべき。
○医療機能面の見直しに合わせて病院名称も変更し、対外的にも生まれ変わったというメッセージを出す工夫も必要である。

2 第2次中期経営プラン(24年度～26年度)に基づく経営改善に向けた主な取組内容

(1) 第2次中期経営プランにおける基本方針

脳血管医療センターの抜本的な経営改善を図るため、22年8月の経営委員会答申の提言も踏まえ、現行の脳血管疾患医療機能の向上を図るとともに、脊椎脊髄疾患など高齢者に多い神経疾患等に対する医療機能の拡大・拡充に向けて取り組みます。

(2) 主な取組内容

○脳血管疾患医療機能の維持・向上

- ・脳血管疾患医療機能の向上に向け、高度・先進的な医療などへの積極的な取組
- ・糖尿病・高血圧などの合併症への対応のため診療体制の確保
- ・神経難病の診断機能や臨床研究の充実に向けた画像診断機器の更新
- ・内科系疾患に対する病棟機能の向上に向けた病棟再編成

○医療機能の拡大・拡充

- ・脊椎脊髄疾患など高齢者に多い神経疾患等に対する医療機能を拡大・拡充
- ・外科的医療機能の拡充のための手術室増設等の施設整備
- ・外科系疾患に対する病棟機能の向上に向けた病棟再編成

○経営改善目標

- ・中期経営プラン最終年度(26年度)での約6億円の収支改善を達成

【参考】収支改善目標の内訳

	H22決算	H26目標	差引
経常収支	▲ 9.4 億円	▲ 3.6 億円	5.8 億円
経常収益	58.4 億円	66.6 億円	8.2 億円
入院収益	30.2 億円	39.1 億円	8.9 億円
外来収益	3.2 億円	4.4 億円	1.2 億円
その他	25.0 億円	23.1 億円	▲ 1.9 億円
経常費用	67.8 億円	70.2 億円	2.4 億円
給与費	34.2 億円	38.3 億円	4.1 億円
材料費	4.4 億円	5.7 億円	1.3 億円
経費等	16.8 億円	16.2 億円	▲ 0.6 億円
減価償却費	12.4 億円	10.0 億円	▲ 2.4 億円